

平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年11月10日

上場取引所 大

上場会社名 ダイヤ通商株式会社
 コード番号 7462 URL <http://www.daiya-tsusho.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役
 四半期報告書提出予定日 平成23年11月11日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 大矢 晃久
 (氏名) 山下 和泉

TEL 03-5804-5081

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	2,780	2.8	41	20.3	36	27.9	25	△80.2
23年3月期第2四半期	2,705	7.2	34	—	28	—	128	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	3.39	—
23年3月期第2四半期	17.09	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	2,622	1,010	38.6
23年3月期	2,721	985	36.2

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 1,010百万円 23年3月期 985百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年3月期	—	0.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,600	0.7	60	57.9	50	85.2	43	616.7	5.71

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年3月期2Q	7,552,000 株	23年3月期	7,552,000 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

24年3月期2Q	18,298 株	23年3月期	17,530 株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年3月期2Q	7,534,257 株	23年3月期2Q	7,535,995 株
----------	-------------	----------	-------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報	２
（１）経営成績に関する定性的情報	２
（２）財政状態に関する定性的情報	３
（３）業績予想に関する定性的情報	３
２．四半期財務諸表	４
（１）四半期貸借対照表	４
（２）四半期損益計算書	６
（３）四半期キャッシュ・フロー計算書	７
（４）継続企業の前提に関する注記	８
（５）セグメント情報等	８
（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	８

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する定性的情報

東日本大震災により大きく落ち込んだ国内景気は、回復の兆しが見えてきたものの、その動きは鈍く、福島原発事故から派生した様々な問題や急激な円高や海外経済の減速による景気の下振れも懸念される状況となっております。

当社の主力事業である石油業界の第２四半期累計期間(平成23年４月１日～平成23年９月30日)は、全体的な製品供給能力には安定感がでてきたものの、ギリシャの財政不安・米国経済指標の悪化等を背景とした原油価格の低落や需要の冷え込みによる供給過剰等、本格的な需要回復は下半期以降にずれ込むものとみられております。

東日本大震災の影響につきましては、仙台エリアの１拠点が被災し営業停止の状態ですが、リニューアルプランも固まり再開に向けた工事に着手致しました。

このような状況の中、当社の当第２四半期累計期間の売上高は２億７千８百万円（前年同四半期比 2.8%増）、営業利益は４億１百万円（前年同四半期比 20.3%増）、経常利益は３億６百万円（前年同四半期比 27.9%増）となり、これに特別損益を加減した税引前四半期純利益は３億０百万円（前年同四半期比 76.9%減）となり、これに法人税、住民税及び事業税を加減した結果、四半期純利益は２億５百万円（前年同四半期比 80.2%減）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

当社石油事業のサービスステーション部門におきましては、第１四半期からスタートさせた「集客→リピート率UPのサイクルを意識した」営業施策の実施に加え、車検ライセンス制度を新たにスタートさせ、提案型「車検」の品質向上と客単価アップをはかり、車検台数については計画を上回る状況となっております。また、レンタカー事業も固定客化が進み、東京エリア店舗は増車を行うと共に仙台エリア店舗では本格導入をスタートさせ売上も順調に推移しております。さらに油外収益の新たなメニューとして「ボディーリペア」の試験導入をスタートさせました。東日本大震災の影響もあり、全体的な客数は減少したものの、販売費及び一般管理費の削減などで吸収し営業利益は計画を上回りました。

直需・卸部門におきましては、震災の影響による稼働率低下に歯止めがかかるとともに、更なる売上高を確保する為、積極的に新規開拓に注力した結果、直需部門では、売上高・販売数量共に順調に推移し、営業利益は計画を上回りました。また、卸部門では、取引数量は昨年実績を上回る状況となっております。

これらの結果、石油事業の売上高は２億４千４百万円（前年同四半期比 0.4%増）、営業利益は６億０百万円（前年同四半期比 79.3%増）となりました。

専門店事業であるサイクルショップ「コギー」におきましては、第２四半期において、前期から取り組んでまいりました「集客」「リピート率アップ」「客単価アップ」のサイクルを強く意識して、更なる強化を行いました。また、社内ライセンス制度を活用し、スタッフの販売力強化も継続して行いました。新規出店も順調で、更なる売上向上を狙いました。

これらの結果、専門店事業の売上高につきましては２億８千５百万円（前年同四半期比 28.3%増）、営業利益は１億１百万円（前年同四半期比 2.6%増）となりました。

不動産事業におきましては、当第２四半期累計期間も順調に推移し、売上高は９億１百万円（前年同四半期比 3.0%増）、営業利益は５億２百万円（前年同四半期比 2.1%増）となりました。

（２）財政状態に関する定性的情報

①資産、負債、純資産の状況

当第２四半期会計期間末における総資産は、２６億２２百万円（前事業年度末比 ９９百万円減）、うち純資産は１０億１０百万円（前事業年度末比 ２５百万円増）となりました。

資産のうち流動資産は８億６４百万円（前事業年度末比 １億５百万円減）、固定資産は１７億５７百万円（前事業年度末比 ６百万円増）となりました。これらの増減の主なものは、現金及び預金の１億６２百万円の減少、受取手形及び売掛金の１３百万円の増加、棚卸商品の１６百万円の増加によるものであります。

負債につきましては１６億１１百万円（前事業年度末比 １億２４百万円減）となりました。流動負債は９億３８百万円（前事業年度末比 ２億４７百万円減）、固定負債は６億７２百万円（前事業年度末比 １億２２百万円増）となりました。これらの増減の主なものは、買掛金の２億３９百万円の減少、長期借入金の１億２７百万円の増加によるものであります。

純資産につきましては、四半期純利益を計上したことにより、１０億１０百万円（前事業年度末比 ２５百万円増）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第２四半期累計期間末における現金及び同等物（以下「資金」という）は、前事業年度末に比べ１億６２百万円減少し、１億６１百万円となりました。

当第２四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果支出した資金は、２億８２百万円（前年同四半期累計期間は６７百万円の資金の増加）となりました。主な要因としましては、仕入債務が２億５９百万円減少したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は、１６百万円（前年同四半期累計期間は３０百万円の資金の増加）となりました。主な要因としましては、有形固定資産の取得による支出１５百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は、１億３６百万円（前年同四半期累計期間は３百万円の資金の減少）となりました。主な要因としましては、１億４０百万円の長期借入れによるものであります。

（３）業績予想に関する定性的情報

通期におきましては、被災した仙台エリアの１拠点の再開が当初の計画より延期されているものの既存店の実績が好調なことから売上高については、これを据え置くこととし、利益については油外メニューなどの強化に伴い利益率の向上が進んでいることから増加を見込んでおります。具体的な数値は１１月９日付「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

２．四半期財務諸表
（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 (平成23年３月31日)	当第２四半期会計期間 (平成23年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	323,903	161,799
受取手形及び売掛金	428,746	442,069
商品	179,955	196,827
その他	47,336	71,160
貸倒引当金	△10,221	△7,808
流動資産合計	969,719	864,048
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,280,547	1,280,547
その他（純額）	206,496	217,049
有形固定資産合計	1,487,043	1,497,596
無形固定資産	1,004	1,004
投資その他の資産		
差入保証金	232,933	235,391
その他	78,130	72,418
貸倒引当金	△47,767	△48,428
投資その他の資産合計	263,295	259,381
固定資産合計	1,751,344	1,757,982
資産合計	2,721,064	2,622,031
負債の部		
流動負債		
買掛金	410,347	170,931
短期借入金	538,814	538,814
1年内返済予定の長期借入金	5,500	15,500
未払法人税等	9,200	5,000
店舗閉鎖損失引当金	23,247	14,288
災害損失引当金	110,370	109,110
その他	88,271	84,777
流動負債合計	1,185,750	938,421
固定負債		
長期借入金	11,500	138,500
長期預り保証金	192,111	195,130
再評価に係る繰延税金負債	324,841	324,841
その他	21,461	14,273
固定負債合計	549,914	672,745
負債合計	1,735,665	1,611,167

（単位：千円）

	前事業年度 (平成23年３月31日)	当第２四半期会計期間 (平成23年９月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	90,000	90,000
資本剰余金	1,003,448	1,003,448
利益剰余金	△521,479	△495,966
自己株式	△2,828	△2,875
株主資本合計	569,141	594,606
評価・換算差額等		
土地再評価差額金	416,257	416,257
評価・換算差額等合計	416,257	416,257
純資産合計	985,398	1,010,863
負債純資産合計	2,721,064	2,622,031

（２）四半期損益計算書
第２四半期累計期間

（単位：千円）

	前第２四半期累計期間 （自 平成22年４月１日 至 平成22年９月30日）	当第２四半期累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年９月30日）
売上高	2,705,493	2,780,237
売上原価	2,221,812	2,270,647
売上総利益	483,680	509,589
販売費及び一般管理費	449,014	467,899
営業利益	34,665	41,689
営業外収益		
受取利息	1,127	708
受取配当金	545	240
消費税等差額	—	1,501
その他	1,755	2,674
営業外収益合計	3,429	5,125
営業外費用		
支払利息	8,118	8,656
その他	1,237	1,413
営業外費用合計	9,355	10,069
経常利益	28,739	36,745
特別利益		
固定資産売却益	4,495	—
役員退職慰労引当金戻入額	106,350	—
店舗閉鎖損失引当金戻入額	2,136	6,957
その他	12,396	—
特別利益合計	125,379	6,957
特別損失		
前期損益修正損	4,578	—
減損損失	7,318	—
店舗閉鎖損失	625	—
商品廃棄損	7,591	—
災害による損失	—	13,233
その他	2,176	—
特別損失合計	22,290	13,233
税引前四半期純利益	131,828	30,469
法人税、住民税及び事業税	5,425	4,956
法人税等調整額	△2,407	—
法人税等合計	3,017	4,956
四半期純利益	128,810	25,512

（３）四半期キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第２四半期累計期間 （自 平成22年４月１日 至 平成22年９月30日）	当第２四半期累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	131,828	30,469
減価償却費	10,075	11,498
減損損失	7,318	—
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△560	△1,752
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	△105,837	—
災害損失引当金の増減額（△は減少）	—	△1,260
店舗閉鎖損失引当金の増減額（△は減少）	△20,352	△8,958
偶発損失引当金の増減額（△は減少）	△29,000	—
受取利息及び受取配当金	△1,673	△949
支払利息	8,118	8,656
有形固定資産売却損益（△は益）	△4,495	—
有形固定資産除却損	1,176	—
売上債権の増減額（△は増加）	8,088	△14,089
たな卸資産の増減額（△は増加）	4,894	△16,871
仕入債務の増減額（△は減少）	△52,196	△259,523
差入保証金の増減額（△は増加）	112,385	657
未払金の増減額（△は減少）	14,962	△11,218
その他	△3,381	△1,165
小計	81,348	△264,508
利息及び配当金の受取額	3,649	422
利息の支払額	△8,118	△8,844
法人税等の支払額	△9,725	△9,156
営業活動によるキャッシュ・フロー	67,154	△282,086
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	—	△15,364
有形固定資産の売却による収入	5,172	—
投資有価証券の売却による収入	31,483	—
差入保証金の差入による支出	△8,334	△2,695
差入保証金の回収による収入	2,443	67
貸付金の回収による収入	—	1,380
投資活動によるキャッシュ・フロー	30,764	△16,611
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△3,000	△3,000
長期借入れによる収入	—	140,000
その他	△290	△404
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,290	136,595
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	94,629	△162,103
現金及び現金同等物の期首残高	123,899	323,903
現金及び現金同等物の四半期末残高	218,528	161,799

（４）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（５）セグメント情報等

Ⅰ 前第２四半期累計期間（自 平成22年４月１日 至 平成22年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	石油事業	専門店事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,394,909	222,238	88,345	2,705,493	—	2,705,493
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,394,909	222,238	88,345	2,705,493	—	2,705,493
セグメント利益	33,777	10,744	51,233	95,755	△61,089	34,665

（注）１ セグメント利益の調整額△61,089千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△61,089千円であり
ます。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２ セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第２四半期累計期間（自 平成23年４月１日 至 平成23年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	石油事業	専門店事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,404,149	285,050	91,036	2,780,237	—	2,780,237
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,404,149	285,050	91,036	2,780,237	—	2,780,237
セグメント利益	60,545	11,022	52,296	123,864	△82,174	41,689

（注）１ セグメント利益の調整額△82,174千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△82,174千円であり
ます。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２ セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。